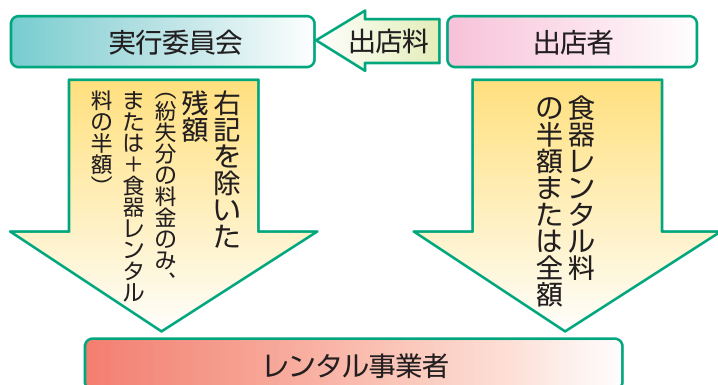


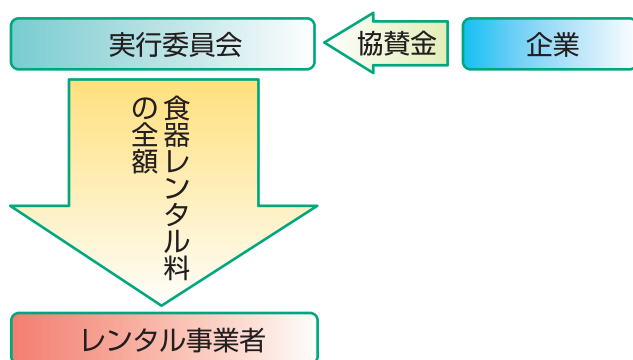


②出店者が負担



市として環境にやさしいイベントの運営に取り組んでいることを出店者に説明して、協力を呼びかけ、食器レンタル代の全額や半額の費用を負担している区もあります（いずれの場合も、紛失分等その他の費用は実行委員会が負担）。

③企業の協賛金を得る



広報やチラシ等でPRを行う際、「この区民まつりのリユース食器は〇〇が提供しています」等の表示を入れることで協賛金を得る方法も考えられます。

② 運営方法を決めよう

② 運営方法を決めよう

リユース食器を導入するときのポイントは、①出店者に協力してもらう、②来場者に協力してもらう、③回収率を高める です。会場の動線やお店の配置などを考慮して、食器の貸し出しと返却の方法を決めます。

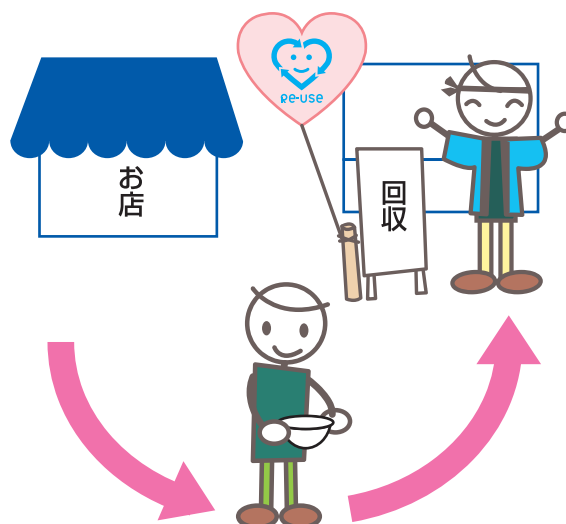
● ● ● どこで貸し出して、どこで回収するか

それぞれのお店で貸し出し→エコステーションで回収

最も一般的な方法では、お店で使い捨て容器の代わりにリユース食器に入れて販売します。

また、リユース食器を繰り返し使うためには、回収は最も重要です。一般的に、使い終わったリユース食器は、エコステーション（ごみ回収所）など、他のごみと同じ場所で回収します。

- 使い捨て容器と同じように扱えるので、出店者も来場者も混乱することは少ない。
- 使い捨て容器と間違えて捨てられないように、エコステーション（ごみ回収所）でリユース食器をきちんと回収する工夫が必要。



● その他、こんな方法もあります

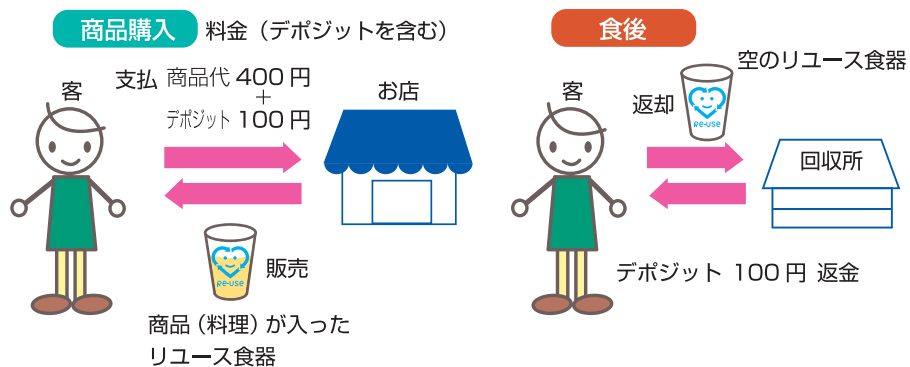
食器貸出所で貸し出す

- リユース食器を使っているよ！というアピール性も高い。
- 貸出所で回収も行えば、管理は楽。
- 一方で、食べたいメニューを入れる食器を確認してから食器を借りていくのはちょっと大変であることや、食器を持たずにお店に来た人には販売できない等、混乱しやすい。



預かり金制度（デポジット制度）

預かり金制度は、回収率を高める仕組みのひとつです。商品購入の際に預かり金（デポジット）を払い、返却時に預かり金を返してもらう制度です。イベント会場への出入口が多い場合などは有効な方法です。



● リユース食器を導入したイベントの事例

デポジット制度を取り入れたイベント

神奈川県民まつり

「神奈川県民まつり」（会場：反町公園）では、環境にやさしい区民まつりを目指し、平成20年度からリユース食器を導入しています。

平成24年度の神奈川県民まつりで使用した食器は、カップ・どんぶり・皿・はし・スプーンなど約8,000個（うちはし・スプーンが約3,500個）で、食器の回収（返却）率は、出入口の多い会場にもかかわらず、ほぼ100%となっています。



リユース食器を返却している様子



デポジットの返金をしている様子

アンケート調査で、お客さんからの評価は高く、リユース食器は「合理的でよいと思う」が75%、「条件付きで賛成」が15%と、約9割の人がデポジット制度に賛成しています。